

京交山岳部報

【第1887回例会】★★★

鉄山（三ツ塚）・弥山
八経ヶ岳

日時 6月13日（土）～14日（日）
集合 壬生 13日AM9:00
コース ①②京一下市口ー川合ー布引谷出
合（幕営）
①布引谷出合…（1H）…二俣…
（2H）…鉄山…（2.5H）…
弥山
②布引谷出合ー行者還トンネル西
口…（1.5H）…聖宝宿跡…
（1H）弥山…（0.5H）…八
経ヶ岳…（0.5H）…弥山
①②弥山…（0.5H）…聖宝宿跡…
（1H）…行者還トンネル西口
ー川谷ー下市口ー京都

担当者 岡田茂久（内811）

備考 ①班は鉄山（三ツ塚）～弥山，②班
はトンネル西口～弥山，八経ヶ岳と
します。
・1/2.5万図 弥山
—詳細は担当まで—

【第1888回例会】★★

夏山合宿トレーニング3

伊吹山△ 1,377.1 m

日時 6月20日（土）
集合 壬生厚生会館前 AM6:00
コース 壬生ー伊吹山登山口…伊吹山…
伊吹山登山口ー壬生
担当者 大塚孝之（内765）
山岡昭弘（内517）
備考 マイカーで行きます。
夏山合宿参加希望者は，ぜひご参加
を！
・1/5万図 長浜

【第1889回例会】★★

三国峠△ 775.9 m

日時 6月21日（日）
集合 壬生厚生会館前 AM8:00
コース 壬生ー梅ノ木…久多川合…生杉…
若走路谷…三国峠…枕谷…地藏峠…
生杉…梅ノ木ー壬生
担当者 吉田 武（654，自392-8145）
備考 普通の山歩きの服装で参加を！

【第1890回例会】★★

七越嶺 (別称 横山・櫛形)

日時 6月24日(水)

集合 京阪四条駅 AM 6:38発特急乗車

コース 河内長野…滝畑…三国山…七越峠…
経塚山…燈明岳…蔵王嶺…滝畑…以
下往路と同じ

担当者 伊藤潤治(自463-4936)

備考 ・1/5万円 五条, 岸和田

【第1891回例会】★★★

小猿山 (点名 虫ヶ壺) △679.2m
と (点名 内海) △736.5m

日時 6月27日(土)

集合 壬生 AM 7:00

コース 京都一上夜久野一羽白…小猿山
△679.2m…△736.5m…現世一
京都

担当者 大槻雅弘(内504)

備考 申年で千支の山へ登る人が多いが、
府県境に珍しい山名を見つけたので
登りたいと思います。
・1/5万円 出石

【第1892回例会】★★

大自然の観賞と野草(山菜)を求めて

芦生演習林

日時 6月27日(土)~28日(日)

集合 壬生 27日PM 1:00

コース 壬生一周山一田歌一須後(泊)一
七瀬一七瀬谷一スグリ谷一ブナノ木
峠△939.1m一内杉谷林道一須後一
田歌一周山一壬生

担当者 鷺見敏一(調整管理課414-1585)

備考 由良川源流(畔)にテントを張って
自然を満喫して、野草(山菜)を観
賞したいと思っております。
なお、参加者の都合で別途のコース
も考慮します。
(詳細の問い合わせは担当者まで)

【第1893回例会】★★

夏山合宿トレーニング4

比叡山・横高山
水井山・大尾山

日時 7月11日(土)

集合 叡山電鉄修学院駅前 AM 8:00

コース 修学院駅…雲母坂…比叡山…横高山
…水井山…仰木峠…大尾山…三千院
…大原

担当者 大塚孝之(内765)

出岡昭弘(内517)

備考 夏山合宿トレーニング最後の仕上げ
です。
・1/5万円 京都東北部

— 今月の集会 —

日時 6月11日(木) PM 6:00

場所 厚生会館 4F 大教室

— 企画運営委員会 —

日時 6月22日(月) PM 6:30

場所 厚生会館 4F 大教室



登山適応メディカルチェック

岡田茂久

新緑の風薫る爽やかな季節、おなかの出っ張りが気になってきたおじさんやおばさんが、なにか運動でもとまず思いつくのが、ジョギングでもやってみようかである。そして最近はこれに登山が加わってきた。

しかし、たかがジョギングというなかれ、ジョギングは誰がやってもいいというものでは無いらしい。ジョギングによる膝やかかとの障害、あるいはジョギング中の心不全等、内臓への障害がとりざたされ、自分は普段から健康には自信がある。又、日常の健康診断で健康と判定されていても、ジョギングをすることが可能かどうかチェックをするために、日本体育協会や府医師会に認定されたスポーツドクターに相談するか、受診すべきであると言われている。

まずここ数ヶ月以内にいろいろの内疾患にかかったことはないか、外傷を受けたことはないか、血圧は安静にして160、90未満か、胸部のX線検査、血液検査、尿検査、貧血、肝障害、腎障害、心電図、糖代謝障害、運動負荷テストで運動中、運動直後の最大酸素摂取量は等々、異常が無いことを確認し、最終的に医師からジョギングをしてもよいと診断されて、初めてジョギングをすべきとされている。まるで宇宙飛行士の採用試験並みのチェックを受けるのではと思うほどである。

文部省体育局の安全登山必携によると、「登山者は第一線級の登山家でも、他のスポーツ選手に比べると基礎体力が劣る。これは登山が体力を要しないのではなく、常に体力的に無理な行動をしていることが多い」と指摘している。

このため基礎体力をつける為にジョギングを行う登山愛好家は多い。しかしこのジョギングにおいてさえ、このように注意すべきだと言われている。まして実際の登山においては、「登山者は常に体力的に無理な行動をしている」とされているのである。最近、問題になっている中高年の登山者の場合は、自分は登山をしても大丈夫かどうか、一度は、しっかり診断を受けることがあってもいいのではないだろうか。また、若いときから登山をしている者は、意識的な若さが残っており、成人病等の身体の障害に気が付き難く、無理をしやすいといわれている。すくなくとも登山はジョギングよりハードな運動である。まして人里離れた大自然をフィールドとする登山においては、街路をフィールドとするジョギングの危険性の比ではない。その上、中高年の登山者の場合単独行が多いときは山中の急病となれば致命的である。自ら進んでチェックを受け、少なくとも自分はこの辺りが弱点であるという自覚があるだけでも、中高年者の登山中の事故の、何割かは確実に防げると思うのである。

自分の場合は健康について気になることもあり、人間ドックには毎年入るようにし、登山が趣味でかなりハードなこともしていると医師に告げて、いろいろのアドバイスを受けるようにはしているつもりであるが。

【第1871回例会】

積雪期遭難捜索搬送救助訓練

大 倉 寛治郎

平成3年度、京都府山岳連盟遭難対策委員会主管の積雪期遭難救助訓練が、平成4年2月22日(土)～23日(日)山岳連盟加盟団体、京北署員、府山岳救助隊員、参加者60名をえて、京北町京北山の家を現地本部に設置して、昨年実施した廃村八丁に置いて訓練は行われた。

当山岳部より、岡田部長、吉田救助隊員、大倉救助隊員、他1名が救助訓練に参加し指名された担当部署を消化した。

救助訓練は、廃村八丁四郎五郎峠を遭難現場に設定、遭難対策委員会は救助隊を編成して2月22日(土)第1次捜索隊は京都バスにて広河原菅原よりと、京北町小塩からの捜索救助に向かった。昨日から降った雪で両隊は本番さながらの捜索となった、広河原隊は四郎五郎峠付近にて仮想の遭難者発見、ただちに負傷箇所の確認、応急処置、現地対策本部へアマ無線にて発見の連絡救援の要請をする。京北隊は負傷者搬送、ルート工作にあたるために、遭難現場へ。負傷者は携帯用スノーボード収容し京大高分子化学の山小屋へ収容し本日の救助訓練を終了。現地対策本部に全員引き上げ午後8時よりの全員集会へ、宮川遭難対策委員長の司会で明日の救助訓練について打ち合わせ後、遭対委員、消防局登山サークルの方より雪崩により雪の中にうずもれた場合の救急蘇生法の指導と気道確保を人形を使用して実地講習を受けた。つづいて明日使用する3種類の搬送用スノーボードについて説明後、班編成、班ごとによるミーティング、懇親会にはいる。

23日(日)午前5時各班は自家用車に分乗して、負傷者が待っている京大高分子化学山小屋へ順次到着第1班は携帯用スノーボード(堤氏より借用)「専用ケースに収納してあり軽量で担いで現場へ組み立ても簡単で、特に雪の上では抵抗も少なく少人数でも搬送が可能」。第2班も携帯用ストレッチャー(神奈川岳連大山氏考案のを借用)「テントシートを改良してオールランドに活用出来る様にすべてがザックに納まるように工夫して有り軽くて持ち運びが楽である、負傷者には雪面の凸凹には背中をなでるようになり少し苦痛のようであった、もう少し改良の必要があると思われる、搬送については雪面の抵抗も思ったより少ないとのこと」。第3班はスノーボード(京北署持参)を使用する「3種類の中では一番頑丈で安定感がある、物が大きく持ち運びに苦勞する、搬送についても安定感があり負傷者にも安心感がある」各班は交代で3種類の違った搬送用具の体験をした。昨日搬送した広河原隊は搬送路の確保と急斜面のチロリアンブリッジの工作に当る。事故もなく予定どおり林道口まで搬送をして救助訓練を終了し、自家用車に分乗、現地本部に戻り総括をして積雪期の救助訓練を終了した。私も3年続けて参加し、一旦事故を起こせば一組織では対応出来ないことを身をもって知ることが出来ました。残念なことに当クラブからの参加者は少なく次回の無雪期救助訓練には是非とも参加されますよう救助隊員としてお願いします。尚、日本山岳協会の山岳共済保険に加入も併せてお願いします。

参加者：岡田茂久、吉田 武、大倉寛治郎、他1名

【第1879回例会】

淡路島一等三角点巡り

釜口山・竜宝寺山・諭鶴羽山

大槻雅弘

いずれ機会があれば、淡路島の一等三角点巡りをしてみたいと思っていた。でも、機会というのは自分から作り出すものと、第三者から与えられるものがある。待っているだけでは出来ない機会は、やはり自分から作り出すべきで、今回の例会も年間計画に組み込んだ中で出来たものである。

当日、予定より早く明石から岩屋へ向かうフェリーに乗船することが出来た。久し振りの海は、僅かな時間だったけれど、いつも山ばかりの者には、海の広さ、青さに、そして波しぶきに、少なからず感動を覚える。

岩屋からは、最初の目的地である釜口山を目指した。海岸部から少し離れた広陵地帯に入ると、島の中にいることを忘れさせる。

大塔峠に車を止め、出発点とした。そこから山腹をはうように巻きながら進むと、林道に出くわした。読図通り二つほどのコブを確認して林道を外れると、五分程の登りで釜口山の三角点にたどり着いた。ブッシュの中の静かな三角点であった。

釜口山を後に、次の目的地は、常隆寺山、伊勢の森へと向かった。大塔峠から20分ばかり車を走らせ山頂近くの常隆寺に着いた。寺の人に車の駐車を頼み、「こんな良い場所、もっと人がたずねると良いのになぁ。」と、話していると、「余り宣伝すると人が多く来て困る。ゴミを残すから。」と公害論を唱える。あちこちで自然保護が叫ばれているのが、こんな山奥まで来ているのかと感心する。本堂へお参りして「伊勢の森」と、案内されている寺の裏から石の鳥居をくぐり、一登りすると、三等三角点、常隆寺山の山頂である。林間に海が望めたが、期待していたほどの展望はなかった。

そして次に、今日の最後の山、竜宝寺山へと足を伸ばした。あちこちに派生した田畑の中の道をクネクネと抜け、やっと目的地の山が見えるところへ車を止めた。少しブッシュだったけど30分ばかりで三角点にたどりついた。三角点は、山林が伐採されていて遠くに、明日登る諭鶴羽山や先山等が展望出来、低くても、さすが一等の山であると感心した。

テント地は、予定した海岩辺りに選ぶことが出来、近くの親切な民家の方に風呂まで入れてもらう歓待を受けた。その夜は波音を BGM 代わりに心地よい眠りについた。

4月12日。テントの入り口から久し振り大きな太陽が昇るのを見る。いつもと違う潮の匂いがする。山の樹々に囲まれた朝とは違った雰囲気である。海拔0mから（イヤ、厳密には15mぐらい）登る山は、他の山より高く見え、諭鶴羽山は、はるか上方に突き上げている。今回は、旧参道の地藏道を探って、三角点へほぼ地図上を直登しているルートに登ることにした。

黒岩の村はずれから、すぐに山道に入る。北山では見られない樹相、南国の木々の間を何丁目と刻まれた地藏さんに、見守られながら高度をかせぐ。一呼吸、二休みするころには、遥か下に

黒岩の海岸線が見え、凄く高度差を感じる。

昔からよく歩かれているのか、山道は幅もあり適度なカーブを描きながら、論鶴羽神社まで続いた。三角点へは、神社の裏を少し登って無線中継所のコブを越えたところが三角点であった。少し風が強く、寒かったが展望の良い山で、さすが一等の本点だけはあり、淡路島の盟主であると思った。

下りは往路下山し、「日本最初峰と称す」先山へドライブ登山した。この山は、いざなぎ、いざなみの二柱大神大八州（日本国）の創りし時、第一に成り出でし山なるを以って、先山と号すると紹介されている。その先山を最後に、一等三山、三等一山と先山を合わせ五山登ったのを土産話に、淡路島を後にした。

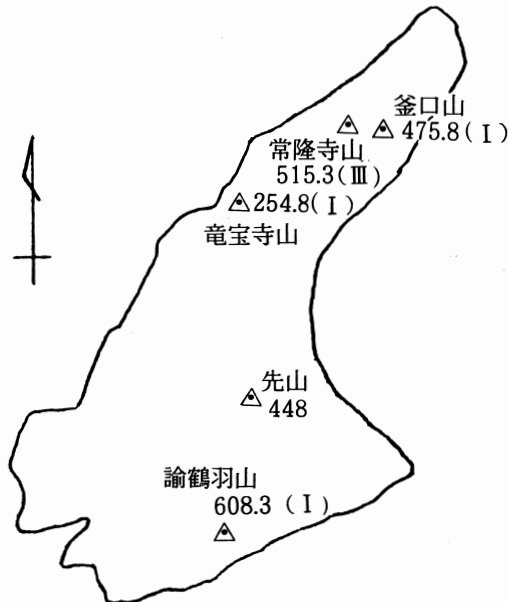
〔参加者〕岡田茂久、渡辺智生、今井勇二郎、方山宗子、大槻雅弘（他1名）

〔コースタイム〕1992.4.11~12

11日 九条（7：10）—（8：40）明石（8：50）～（9：05）岩屋（9：10）—（10：00）大塔峠…（10：45）釜口山△475.8（11：15）…（11：45）大塔峠—（12：10）常隆寺…（12：20）常隆寺山△515.3（13：10）…（13：25）常隆寺一車止（14：10）…（14：50）竜宝寺山△254.8（15：20）…車止（15：40）—（17：30）テント地黒岩

12日 テント（7：45）…（8：04）登山口…（9：10）論鶴羽山△608.3（10：50）…（11：45）登山口—（14：00）先山—（15：15）岩屋—（17：30）九条

淡路島と一等の山々



猿子城山・西勢山・榎尾山

伊藤潤治

天気予報は芳しくなかったのに、目覚めると青空が励ましてくれており、乗った京阪の車窓は、サクラよりも緑色がさわやかにながめられたのもうれしかった。

けれども南海に乗ると、風景の違うのは仕方がないとして、ここにきて満天暗雲とはだまし討ちのつもりだろうか。

河内長野から滝畑までバスのつもりでしたが、9時20分まで待つよりも、8時35分発でサイクリングセンターに先着して歩く方が良策だと信じた。これは距離ではなくて、そのごのバス停、5の数によったが、まさかと思ったそのバスに追抜かれて、あれっ、こんな筈ではなかった、と、過信と誤算のうぬぼれがおかしゅうてならなかった。

西ノ村で糠雨が遂に降雨になった。悪天になれば、さっさと退却するのにかぎるのだが、どうしてもそんな勇断ができるもんですか。

なあーに、榎尾山ぐらいなんぼ降ったってたいしたことがあるもんか、と極めて不遜でした。ここにはダイヤモンドトレールというものがあるようだから、うかつにはひるめないのである。

丸太の階段を上り、滝畑ダムを背にして、植林下の静かな山ヒダを縫い、小滝のある谷をまたいでいくと、はやくもポテ峠についた。

榎尾山へは当然下りであるが、まだ下るほど上っていないのである。私としては、「大島亮吉」のいう「山にのぼる者の心を最も強く惹きつけるものはなんと^{いまだき}いっても峰の頂だ。けれど、その頂と頂との間の低い凹みを言う峠というものにも、私たち山にのぼる者の心を惹くに足るものが幾分はあるやうに思へる」のように、比良で例えれば、北比良峠とか金糞峠のようであってほしかった。

従って足は勝手に河内長野・和泉両市の境界稜に向っていた。

きれいな伐分けが心をほぐしてくれた。また急坂では、顔面と山肌が5、60cmに迫るのぼりなど、痛快にたどった植林の平坦に、猿子城山（鬼ヶ城）の打標があった。ちなみにある書は「一猿子城の頭に登る標高は766m鬼ヶ城ともいうがその名の起りはわからない」という。この標高、私の地形図では700mである。

この辺りの自然林は、ある研究のため立入禁止札を気がねするくらいに吊っていた。

最高峰の裾からトラバースで「十五丁を刻んだお地藏さん」の主稜につくと、いつか雨はやんで小鳥の声も冴えていた。

ここから榎尾山だけで帰るには早すぎるといっても西勢山をピストンする体調（ヘルニア）に自信がなく、西勢山を登って下山することにした。

そして分岐点に行くと、地図には破線の記入があるのに「320班」標から藪である。

ここに至って西勢山のピストンを即決、藪に突入したのだった。

思いがけない展開，でも，そのまま進み，最後の上りで，光滝寺からという年期の入った単独行と出会った。これからボテ峠経由で滝畑に下山するとおっしやっていた。

西勢山Ⅲ△777.6 m（点名榎尾山）は，植林と雑林を分けた雑林側にあった。木漏れ日が暖かく，感激を叫んだあとは，大の字の横臥でくつろぐ。この滞頂は体を軽くしたようだ。

戻り道は風が木立をざわめかし，三国の山波をかいま見させてくれた。分岐でも少憩して「十五丁・地藏」を再拝のあと，猿子城山・岩湧山の山容に感動しつつ「二丁」に下ると，滝畑ダム道が別れ，参拝者・行楽客でにぎわう榎尾山施福寺についた。

この榎尾山を『日本山嶽志』は，「榎尾山（別称巻尾山）和泉国泉北郡・河内国南河内郡ニ跨ル。泉北郡西横山村大字坪井ヨリ凡一里十四町・南河内郡高向村大字滝畑ヨリ凡一里ニシテ其山頂ニ達ス。（日本名勝地誌略）」と述べ，

また『近畿の登山』では，「榎尾山，約420 m，西国第四番の札所として著名である。山といっても，七越山の裾が群山状に隆起しているのであって，兜卒ヶ岳・卒都婆ヶ峰，捨身ヶ岳等の名がある。」という記述である。

ちなみに「ある書」の榎尾山は，「和泉市の南東部，河内長野市との境界近くにある山，標高601.6 mの捨身ヶ岳を最高峰とする峰々の総称。」というが，この捨身ヶ岳の位置，標高ca580 m峰のことか。

施福寺をお参りして，泉大津へは寿司詰めバスに立ちん棒のところ，間もなく席を譲っていただき，ありがたい帰路だった。が考えると私のコースは逆のようだった。

〔コースタイム〕

4月12日 歩き出し9：00・西ノ村10：00～10：12・（10：35～11：05，朝食）・ボテ峠11：22
・猿子城山11：55～12：05・15丁地藏12：25～12：30・分岐12：47・西勢山13：05
～15・施福寺14：45～14：50・泉大津16：30・京阪三条18：30。

朝のあの青空は嘘ではなかった。

【第1881回例会】

学能堂山(1,021m)

岡田茂久

なんとも妙な名前の山で「岳の洞山」ともいう。奈良県宇陀郡御杖村と三重県一志郡美杉村の県境に位置する二等三角点の山で，県境の美杉村杉平からのルートを考えて。

杉平は古くからの伊勢街道であり，街道を挟んで大洞山と相対している。大洞山の麓には有名な三多気の桜と，古代人の住居跡である小屋遺跡があり，また大洞山は興味尽きない古代遺跡が連なる謎の「古代太陽の道」，北緯三十四度三十二分に位置する山である。いつの時代に何の目的で誰が作ったか知れないが，今は東海自然歩道になっている大洞山の東山腹，尼ヶ岳との接部

大タワまで伸びる石畳の道は圧巻である。是非この山城を訪ねたときは歩いてみることをお勧めする。

岳の洞はこの大洞山の大的洞に相対する呼称と聞いたが、地元でも確認できなかった。

いつもと同様壬生本局前に集合、新設の京奈和道路を通り、天理から名阪国道を経て榛原からR 369を御杖村にでたが、いつも乍ら京都からこの山城に入るアプローチには頭を痛める。

やはり御杖村まで3時間を要してしまい、出発時間が遅かったのが悔やまれる。神末から県境を越え杉平の集落に入り、伊勢地川の橋を渡ってすぐに右折して水谷林道に入る。入口は狭い急均でわかりにくい、三多気の桜への案内板の手前である。林道は標高650mあたりまで続いているようだが、笹峠から杉平の下手の払戸への周回コースをねらうことにし、あまり車で登り過ぎてはと、舗装が途切れた先の林道脇に駐車する。

林道を300mほど歩くと左手に登山道が分岐している。さすが美杉村の杉平、見事な杉の植林の中の気分がよい道で、植林の中にはかつての屋敷跡でもあるのか古い石積等も見られる。登山道は林道とは谷を別けて登っていくが、30分程で再び林道と合致する。林道の終点でもある。

ここからの上へのルート入口はやや不明瞭だが、涸沢の右岸の草の中の踏跡を植林の中に入れればはっきりした道が現れる。涸沢に沿うようにして登る細道の急坂であるが、ひと頑張り稜線を目前にする植林の中の平になる。登り着いた稜線はP 908の東側の小さな按部である。

按部から左折する稜線の道は植林の中のプロムナードである。やがて植林と下生えが全く無い、雑木林の境目をたどる緩い下りとなり、突然に視界が開けて右手に三峰山と高見山が姿を現す。正面に望む学能堂山は、こんもりと丸いカヤトで被われてなんとも優しい。逸る気持ちを押さえながら、笹峠の標識を見送りゆっくりと学能堂山の頂上に立つ。

カヤトと笹原に囲まれた頂上の360度の展望は、申し分なく素晴らしいの一語に尽きる。北に大洞山、北東と南西の天を突く尖峰は局ヶ岳と高見山、南の稜線続きに一等三角点三峰山の巨体が横たわり、西には古光山の奇怪な姿と、思わず長居をしてしまう頂上である。

下りに予定した払戸への道は、伐採跡で隠れてしまいはっきりしないので往路下山とする。

最近の山行例会には、何かひとつオプションをつけるのがいつのまにか癖になってしまった。

今回は、南北朝時代の雄、北畠一族の興亡を秘めた上多気の北畠神社と館跡庭園を訪ねた。南朝天皇の側近で不屈の北畠親房、その長子で悲運の花の鎮守府将運北畠顕家、その弟北畠顕能が伊勢国司として築き、戦国時代に織田信長の猛攻を受けついに落城した霧山城跡。南北朝から戦国の動乱の世に生き、そして滅んでいった名族北畠一族。山深い上多気の里に歴史の哀歎を偲びつつ、新緑の伊勢路から帰途についた。

平成4年4月25日(土)

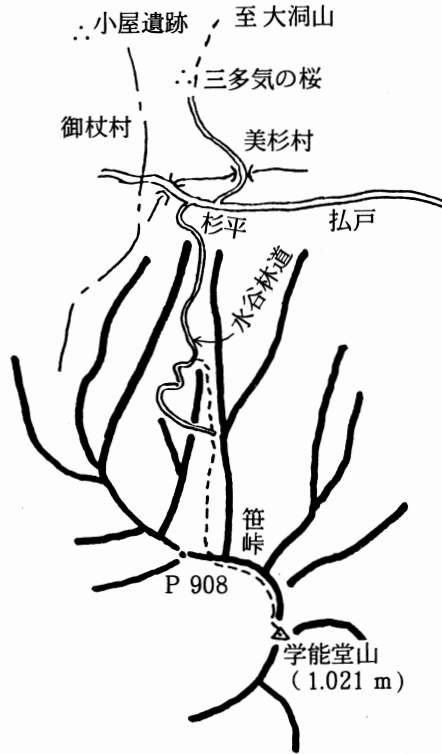
〔コースタイム〕

京都(7:30) = 杉平(10:40)

水谷林道駐車(11:00) … 登山道分岐(11:05) … 林道終点(11:30) … 植林の中の平(12:00~12:40) … 稜線(12:45) … 笹峠(13:00) … 学能堂山(13:05~13:50) … 稜線からの下り分岐(14:05) … 林道終点(14:30) … 水谷林道駐車場所(15:00)

北畠神社 (15:30~16:00) = 松阪 I C (16:40) = 京都 (19:00)

[参加者] 大槻雅弘, 鷺見敏一, 鷺見寿末子, 和田良一, 方山宗子, 伊豆蔵清, 岡田茂久,
奥村弘信, 津田 実, 横井襄二, 原田加津子, 渡辺智生 (F1)



【第1882回例会】

伊豆・天城縦走報告

津田 実

毎年5月の連休は、吉田君の企画で未知の山に連れて貰っている。秩父・信州・新潟・紀州等の山々に。

今年は趣向を変えて、川端康成の小説、「伊豆の踊り子」で有名な天城山地は万二郎岳・万三郎岳等を含む、所謂、天城縦走を企画しているから是非参加するようにとの「ありがたい」お話を承り、例に依って埃の海で惰眠を貪っている辞書氏を叩き起こし、その啓示をうける。

辞書氏 宣う、『天城山(天城山地・狩野山・尼木山) 静岡県田方郡。伊豆半島の中央部にある成層火山群の総称、中央火口丘の白田山を中心に、山頂部に直径約7kmの火口がある。

外輪山には伊豆半島の最高峰万三郎岳や万二郎岳・篝木山・三筋山などがあり、南東に火口瀬

の白田川が流出する。

天城峠付近の八丁池は火口湖である。中央火口丘にして半径8km内に丸山・鉄窪山・大室山・遠笠山など大小15の側火山がある。起伏が大きく山麓は狩猟地で、マツ・スギ・ヒノキ・カシ・モミ・ツガ等の森林で、御料林であった。

溪流にはワサビ畑が多く、また、古くから木甘茶(きあまちゃ)を産するのが地名の由来であるという。

与謝野晶子「天城山まことに雲の凍りたるつららしりぬ いただきにして」。

井上 靖「あすなる物語」の舞台。「富士箱根伊豆国立公園に居す」とあった。

これを読んで慌てて地図屋へ急行、毎度のこと乍ら俄ガリ勉のうえ、伊豆に向かう。

初日は達磨山I△三角点(補点)981.9mで長旅の疲れを調整、明日の縦走に備える。

2日目、天城高原GC入口横の「万次郎岳・万三郎岳登山道」の指導標に導かれ樹林の小道に踏み入れ、右からの小道に合うところに「万次郎岳・万三郎岳登山口」の標識があった。(後で知ったがこの地点を四辻というらしい)。

しばらくは小溪の左岸に沿って樹林の中の小道をルンルン気分で歩いて行くと小道は何時の間にか傾斜を増し、登路は雨水に流されてか、大小の石の露出し益々歩足を鈍らす。しかし、昨夜快適に寝んだ諸君は、一人の老体を除いて快調そのもの。特に康一君の健闘著しく、少年の牽引でか、一回の休憩で万二郎岳に辿りつく。そこは、標識がなければ分からない笹藪の中であった。

万二郎岳の標識のある地点から径は、今までと反対に急激な下りになる。ドンドン降りて稍、平坦になってくるとアセビ林から石楠花が群生地になり、左に「石楠立(ハナタテ)中伊豆町」の標識があった。マメザクラ・エゴノキ等の樹林を抜けると、急登になったがお得意の四輪駆動にギヤを切り換える間もなく突然目の前が明るくなると少し広い台地の右端に万三郎岳、一等三角点(1,405.6m)の標石が厳然と天空をさしていた。

展望は周囲の樹木に遮られ僅か木の間越しに富士山が見えたがガスで写真にならない。今日は長丁場だから余りゆっくりはできない。少しの休憩で出発する。

細い尾根道をいくと急な下りになり片瀬峠に着いたが、そこは私たちの持つ峠の概念とはおよそかけ離れたものだったが。

片瀬峠から少しで稍、平坦な地点が戸塚山で、そこを過ぎるとすぐ戸塚峠で「皮子平・筏場」の標識が立っていた。なおも下って行くと左下に東伊豆の白田に通じる作業道を分ける地点、白田峠で休憩する。

道は平坦になり周囲の林相もブナやヒメジャラにヒノキが交じりだしてくると、簡単な服装の登山者を見るようになってきた。“コレデ山ニ登ルノカ”?

道は更に楽になり、快調にトバして両脇の笹の間を左折すると突然、空が明るくなり、大きな池に出た。これが案内書にあった八丁池で、池畔には大勢の散歩者がおられた。

先行の田村君が「四阿」の一隅で食事の用意をしてくれていたから早速ご飯にする。朝から持ち歩いて少し温かくなった缶ビールを廻し、女性軍が早朝から作ってくれた握り飯を食べ乍ら周

囲を見ると「四阿」の正面に池を隔てた高台に展望台があり、地図に△ 1,236.7 mを見付けたが、時間の関係で割愛。縦走路を旧天城街道に向かって歩を進める。

八丁池を左に見て少し登り展望台への道を右に送ると下りになり歩き易くなってきた。(案内書には天城縦走ハイキングコースと書かれている)山腹を巻くようにつけられた道は右に深い溪を見てルンルンコースで歩速も自然に増し、行き交う人も幼い子供連れから、若い女性たちが、散策を楽しんでいられるようだ。今までの厳しい涸谷の様相が一変、豊かな水流が音高く噴出している大きなワサビ田が現れ、右に遊歩道を分けるが縦走路はなおも山腹に行く。

溪を左岸から右岸に渡ると少しで建物の屋根が見え、旧下田街道天城トンネルの入口に出た。そこには万三郎岳で別れた大倉君が車を回送して、待っていてくれた。ありがとう。

案内書では歩行距離約20kmとあったが全員快調で怪我もなく縦走を果し、云い知れぬ充実感に満ちて天城山地を後にした。

〔参加者〕吉田 F 1, 大倉 F 1, 奥村, 森本, 田村, 原田, 津田, 他 3 名

〔コースタイム〕

天城高原 G C 発 7 : 01 ~ 7 : 13 → 7 : 54 ~ 8 : 00 → 万二郎岳 8 : 13 ~ 8 : 21 → 石楠立 (ハナタテ) 8 : 50 ~ 8 : 58 → 万三郎岳 (I △ 1,450.6 m) 9 : 23 ~ 9 : 38 → 片瀬峠 9 : 53 → 小岳 10 : 00 → 戸塚峠 10 : 28 ~ 10 : 38 → 白田峠 11 : 01 ~ 11 : 08 → 八丁池 11 : 52 (昼食) 12 : 40 → (小休止) 13 : 25 ~ 13 : 33 → 向峠 14 : 17 ~ 14 : 20 → 天城峠 14 : 27 → 天城峠旧トンネル北口 着 14 : 48

登山の歩行時間 5 時間42分

登山中の休憩時間 1 時間53分

縦走所要時間 7 時間35分

【第 1 8 8 3 回例会】

由布岳・九重連山・英彦山

渡 辺 智 生

5月2日(土)午後8時、神戸(六甲アイランド)港をダイヤモンドフェリーで出港。心が高ぶる船出、豪華な夕食、終夜中OKの快よい入浴、甲板から仰ぎみる星空で、一夜が明け大分港へ。

5月3日(日)別府湾を右手に小倉街道を進み、別府温泉街を抜け、九州横断道路を由布岳東登山口に到着。

朝霧の中の豊後富士ではなく、五月晴の中に突っ立つ由布岳でした。あたり一帯は緑のなだらかな草原の中に登山道が続き、実に気持の良いアプローチでした。すぐに樹林帯の中に入りやがて飯盛ヶ城(△ 1,067)との鞍部である合野越ごうやに着く。真夏を思わせる日光のもと多くの登山者と言うより家族づれが目立って休んでいた。

ここからは、山の北側にまわりこむように登山道は続き、やがて茅かやにおおわれた斜面をジグザ

グに登りをかせぎ、眼の下に先ほどの飯盛ヶ城や町なみを見ながら急斜面に登りきると東峰と西峰の鞍部に着く。頂まで見える東峰には、蟻のように点々と登山者の列が続いている。私達は、一等三角点のある西峰の岩場に取りつき頂上へと登る。足場もしっかりした気持ちの良い岩登りである。

由布岳山頂、さすがに素晴らしい！ これからの行程である九重連山の峰々、遠く阿蘇の山波ものぞめる。さえぎるものは何もし！

往路を下山、途中「時間があれば東峰へも、合野越えを行き西登山道からの由布岳が見たい」と思いながらも、芽の吹きかけた茅の中をジグザグ道をさけて、まっすぐに、次の行程に向って一刻も早くと時間をかせぐ。人も車も増えた登山口に着いた時、由布岳は午後の光をあびて朝とは異った姿でそびえていました。

やまなみハイウェイを走る。次の予定地、阿蘇の烏帽子岳に向って、右に左に変わる景色に見とれるうち、何回かの渋滞をくりかえし、ついに先の料金所を先頭に停滞した。「コラアカンワ」今夜の食料が調達できる村をさがす。急きょハイウェイをはずれ右折。途中「ここは全て私の土地です。300円いただきます。」商売上手な小母さんの土地を通り抜け、こじんまりとした黒川温泉に着きました。

民芸風スーパーで食料を買いこむ。店の前に溢れる90度の熱湯、このまま帰る手はないと、一呂浴びることに衆議一決、再びハイウェイにもどり牧の戸峠の駐車場に一泊する。明日もお天気らしい。星がきれいでした。

5月4日(日)早朝から駐車場は満車である。今日は九重山群の主峰「久住山」に登る日です。牧ノ戸峠を後に登るとすぐに樹林を抜け赤茶けた岩山、くっかけ山(△1,503)が現われる。石のごろごろした道をゆくうち扇ヶ鼻の分れ、を過ぎるあたりからは文字どおり九重山群の真中である。右に肥前ヶ城、左に星生山、アルプスと一味ちがった山容にすっかりのめり込む思い。やがて久住山避難小屋に着く。ここから一気に主峰久住山頂に。

山麓に高原を、山上に湿原を、1,500メートルを越える16座の山群、そしてその間に点在する温泉と九州の屋根はさすがと感心することしきり……。

目の前にそびえる中岳へ、いったん下ると青い水をたたえた御池に出る。「ここは霧が出てめったに全容は見ることはできません。」すれちがった登山者が教えてくれた。中岳山頂、ここも久住山にまけずにすばらしい。ところがものすごい風！ 風をさけて早々に下山、天狗ヶ城を通り北千里浜へ向う。このあたりは人も多くにぎわいを見せている。

岩石の道を下ると谷あいとなる。両側に岩山がせまり、前方に三俣山が立ちはずかり、硫黄山から吹き出す噴煙のにおいが一面にたちこめている。ちょうど西部劇の幌馬車が往く〇〇溪谷である。

やがてすがもり越の道と合うところで、右へ大きく廻り北千里浜、ここは様子が一変し、砂地の川床を歩くようである。砂地を過ぎ急に下ると法華院温泉、九州最高所にある山の湯、ここで昼食後、静かな湿原の広がる高原の道「坊ガツル」をゆく。この湿原のむこうに続く大船山にキリシマが色づいているはずである。今はそれでも新芽のあわいグリーンがその山容をやわらかく

包んでいました。

新緑の美しい樹林の道を、雨ヶ池をみて長者ヶ原に着いた。

思い出したように昨日のかたきうち、せめて草千里と烏帽子岳の山容を見るため、やまなみハイウェイ、阿蘇町を抜け、阿蘇登山道路へ、一気に阿蘇山を往復。その夜は星生温泉ホテルの円型のヒノキ風呂でごきげんになりました。

5月5日(月)北九州の霊山「英彦山」に来ました。北の登山路高住神社からの登山口、岩をかむ急な神社の階段を登る。大きな杉の古木が先来の台風のためかあちこちに倒れて道は荒れている。それでもさすがに信仰の山としての雰囲気はある。

急な登りをすぎ一本杉の峠で少休憩の後、ややゆるやかになって樹林を行くと北岳につく。小さな標示がある。一たん下り再び登ると青瓦の美しい英彦神社を祀る中岳である。ここはさすがに登山者も多くにぎわっている。急坂を下って最高峰南岳の頂上。三角点のある所からは展望はないが、そのそばの展望台から一等のながめ、往路下山、下関ブリッジで関門海峡の潮の流れを見て、中国自動車道をまっしぐらに、いっしょう懸命帰路につきました。

〔参加者〕岡田茂久、鷺見敏一、鷺見寿未子、方山宗子、渡辺智生

〔コースタイム〕

5月2日 神戸(六甲アイランド) 20:00

5月3日 大分港 8:10~8:40—飯盛ヶ城鞍部 10:25—由布岳(西峰) 11:45~12:25—飯盛ヶ城鞍部 13:08—登山口 13:30—黒川温泉 16:00—テント地(牧野戸峠) 18:00

5月4日 起床 4:45—朝食 6:00—出発 6:50—扇の鼻岐れ 7:45—久住岐れ(避難小屋) 8:08—久住山頂 8:35—中岳 9:25—天狗ヶ城 9:25—北千里ヶ浜 10:40—法華院温泉山荘 11:15—坊ガツル—雨ヶ池 12:12—長者原 13:00~13:50—阿蘇草千里 16:00—星生温泉ホテル 18:00

5月5日 ホテル出発 7:40—高住神社 9:45~50—一本杉峠 10:30—英彦山北岳 10:50—中岳 11:15—南岳 11:25~12:00—北岳 12:25—高住神社 13:00~13:28—九州自動車道(小倉東) 14:48—中国自動車道(関門橋) 16:00—京都

【 個人山行 】

平成4年北海道の山旅

坂井久光

4月6日~9日、奥鬼怒を探訪。桜や蓮蕁の沿道の花に曙ツツジを見做う八汐ツツジが山腹や処々に植えてあり、薄桃色の美花を咲かせていた。

又、平家塚を探訪して平家盛衰の史跡を見て、栄枯の感に打たれた。又、川俣の噴泉塔の間欠泉も珍しい光景で残雪の溪流美を嘆賞した。

4月12日、西山に片栗のうたげを終えて、4月14日舞鶴よりフェリーに乗り北海道小樽港へ。

4月16日早朝着で、山には残雪が斑状に見え小雨模様だった。駅からJRで余市へ。昨年知り会った下山方を訪れ土産を渡して礼を述べ、一別後の経過を述べ茶菓を頂き、晴れを待って車で梅川町の林道分岐の清掃所へ。梅川トンネルを抜けるとすぐだったが、未だ除雪が済まず、林道は雪で余市ダムへ引返した。ダムから先は残雪があり、雨も上ったので此所で別れて長い林道歩きが始った。ダムは表面が氷で水鳥が2、3羽見えた。林道は雪崩の跡が諸所にあり道をさえぎっていた。

デブリを越え銀世界の落葉樹林の山腹を辿り林道を分れて稜線に出てひたすら積丹天狗岳を目指した。風が出てきて稜上の粉雪が凍てた雪面をこする音が、戦前満州で経験した銃丸の飛来音に似ていた。兎の足跡の他エゾ鹿の足跡も一ヶ所あった。熊の足跡はなかった。太陽も出て来て予報通りになったが、丸山を越す辺りより間近に見える天狗が仲々近づかない。前のピークからコルへ見当をつけて駆け下り、肩へ急斜をジグザグにステップを切って登り、葡松が出ている天狗岳山頂へ。

山頂は50m位の平坦な尾根で北端に櫓の解体した木材が雪上に出ていて、三角点はこの近くと分ったが雪が多くて見えず、この頃から風が強く粉吹雪となった。早々に写真をとって北へ尾根道（雪が飛んで切跡が見えた）を辿って下山。急斜を下ると林間に標識が木にテープが巻いてあり、ルートが解った。下った所は昨年探したブル道との分岐の約100m位西側で木に標識があった。

ここから長い林道歩きが始ったが、雪道で足が疲れたのか峠が二ヶ所程あったが、仲々はかどらず、林道が雪で谷筋との分岐点で見分けがつかず、迷った末、尾根筋を下り、谷川を出て再び林道に出たが、日が暮れて遠くに余市の灯が見えて来たが、分岐で迷い、見当をつけて道らしき所を探してやっと近くにゴルフ打流場の灯と農家の灯を見て、右の民家へ畑を横切り、果樹園を通過して迎着き、下山さんへ電話した。お茶を頂き事情を話してタクシーを呼んで頂き、お礼をしてタクシーで下山家へ。遅いので心配しておられたが、無事帰ったことを喜んで夕食を御馳走になり、一夜泊めて頂いた。

昨夜5時に着いた所は梅川町。最奥の農家の吉田家であった。お世話になったお礼をして余市駅からJRで札幌経由特急で帯広に行き、バスで中札内村へ。友人紅露に電話して、きくや旅館に泊った。その晩紅露が訪れて経過を話し、明日は大樹山へ登ることにした。

4月19日、曇であったが、紅露が雨がやんでから車で迎えに来て、大樹町の大樹山麓の林道の棚のある入口迄送ってくれ、往復1時間半と見て12時頃に来てもらう約束で山へ向った。

小1kmで林道と新設のブル道との分岐に遠く山頂近く迄谷を高巻にて登り、稜線近くで笹原の斜面を登り尾根に乗り、残雪の笹の切開を登って山頂の一等三角点へ。測量竿が立ちピッケルを立てて写真を撮って下山。約束の12時頂度に入口へ。車で中札内に戻り、喫茶店でコーヒーを飲んで別れた。明日は帯広岳へ登る積りだ。昼頃から小雨だった。

4月20日、雨が上り曇天だったがタクシーを呼び、芽室町両伏見の帯広岳登山口へ。運転手はこの方面は始めてで、地図を見て伏見に行ったが、道を迷いダム建設地へ行ったりして時間と金

を浪費した。登山口近くの牧場へ荷物を預けて橋の林道分岐で下車。左の林道を辿ってエゾ松の植林帯を登り、残雪の稜線沿いのブル林道を登りつめ、笹原の稜線に出た。

一峰に登りコルに下って一休してエゾ松の茂る林を登り石楠花のある頂下に出て帯広岳の表示板のある山頂へ。積雪50糎位か。

南に十勝幌尻岳や札内岳が白銀に輝き遠く日高の山々もかすんで見えた。少時休んで往路下山。林道の道端に福寿草が咲いていた。牧場に帰ってバスの時間を聞くと今やとスクールバスが近くの三叉路で間に合うとのこと。行くと東から小型バスが来たが客は一人だけで、伏見迄行くが、連絡はないとのこと。困った、旅館は無いかと聞くと4軒先に町営国民宿舎新嵐山荘があるとのこと、ここで勤務終了となるが、送ってあげるとのことですべて親切な町の職員だった。

来て見ると立派なホテルなみの建物で、スキー場の隣で全館暖房で料理や風呂も立派だった。ゆっくり休養して翌4月21日、バスで茅室駅に送って頂き、JRで帯広一池田に行き銀河高原鉄道經由北見で乗換へ、次いで網走で乗換へ、斜里で下車、車で海別休養センターへ。予て電話していたので夫妻で出迎へ久瀧の挨拶そこそこに部屋に到着き早速温泉へ。

翌4月22日は雨で停滞、4月23日朝から吹雪で予約の為、峰浜の民宿落陽へ移って晴を待った。

4月24日晴れたが、予報では午後雨か雪、早めに車で真糠内川の登山口の橋迄しか雪があって行けなかった。長い林道を歩いて昨夏のブル道分岐へ。一休して藪も残雪の下で葡松の尾根迄割合速く行けた。然し岳樺の林に出た頃から風が強くと主稜線は体が飛ばされそう。

ステップを切って一步一步登り葡松が顔を出さずせ尾根を登りつめ、山頂のピークが真近に見えるコルの上迄来たが、風が強くて先に進めず、おまけに西空が灰黒色の雲が見えて来たのに時間も12時になり思ったより時間がかゝったので、決心して撤退することにした。

昨夏といい今春といい二度の挫折に残念だが、宿の人が心配しているのと万一の場合、皆に迷惑を掛けることになるのを慮って再春再度好天を選んで挑戦することにして、途中迄往路下山するが足跡が消え、見当をつけて川岸の山小屋に下山して小山をトラバースして林道に出て朝の橋の近くに下山してトラックをヒッケして民宿に行き荷物を受取り斜里迄送って頂き、JRで摩周へ行き駅前民宿で一泊した。昨夏来たのを憶えていてくれた。

夕食後入浴してテレビを見て就寝。

4月25日、今日も朝から小雨。雨が上のを待ってタクシーで奥春別の喫茶店へ。運転手の話では経営主が右翼に襲われて怪我で入院中とか。店は休業中で、横の店主宅に行き、荷を預けて北へ牧場へ行き道を尋ねて横断道へ出て暫くして左手山への林道分岐が標識があり登山口だった。残雪の林道を辿るとエゾ鹿が二頭横切って山中へ。鹿の足跡が多かったが熊のはなかった。登山路の分岐が分らず奥へ進んで小谷をつめて稜線へ。踏跡があり笹も低く歩き易い。やがて下からジグザグに上ってくる地図の旧登山路と合し、ジグザグを登って稜線に出て前峰へ。此所から残雪多く粉吹雪になったが、一登りで櫓の形が残る山頂へ。

写真を撮り風を避けて昼食休憩後一路登路を辿って下山。林道へ出るエゾ松に標識があったが小さくて見逃したのだった。

奥春別の宅により荷を受取りバスを待ったが、その間雨や吹雪を避けて電話ボックスで待った

ら車が来て電話をかけ事情を聞いたので話すと帯広へ帰る途中とか。又本社は中札内村だと聞いて吃驚。天候不順でゴールデンウィークも近づいたので明日でも帰京と考えていたので帯広で夕食をとり、JRで札幌ー小樽へ行き旅館で一泊。翌4月26日フェリーで帰京。

〔コースタイム〕

- 4月14日 8:29太秦, 22:50東舞鶴, 22:58~11:30フェリー
- 4月16日 4:00~4:20小樽港, 5:30~6:33小樽駅, 7:08余市駅, 7:25~8:00下山宅, 8:15清掃局, 8:43余市ダム, 12:00丸山523 m 3等△, 13:55~14:00天狗岳一等△872 m, 14:38~14:40林道, 15:30~15:3530林班, 16:41~16:50峠, 18:15~18:20谷川, 20:00~20:20梅川, 20:40下山宅(泊)
- 4月17日 8:35出発, 8:50~8:58余市駅前, 9:35~12:26札幌, 15:15~16:00帯広, 17:10中札内(泊)
- 4月19日 10:10出発, 10:27登山口林道, 10:39林道分岐, 11:25~11:28大樹山538 m一等△, 12:02登山口, 12:35中札内(泊)
- 4月20日 7:25出発, 9:07~9:16登山口, 12:00~12:05稜線, 12:45コル, 13:15~13:20帯広岳1,089 m一等△, 13:30~13:35コル, 15:35~15:40登山口, 16:13バス, 16:50新嵐山荘
- 4月21日 8:00出発, 8:15~8:31茅室駅, 8:48~8:57帯広, 9:21~10:13池田, 13:21~13:46北見, 14:51~15:40斜里, 16:23海別休養センター(泊)
- 4月22日 雨で停滞
- 4月23日 吹雪落陽へ移転(泊)
- 4月24日 7:30出発, 7:45橋, 8:00登山口, 9:05~9:10ブル道分岐, 9:23稜線, 11:55~12:00山頂手前のコル, 14:30~14:35山小屋(無人), 15:23登山口, 15:35~15:40落陽, 16:10~16:38斜里, 17:44摩周(泊)
- 4月25日 8:35出発, 8:53~9:03奥春別, 9:21登山口, 10:25稜線, 11:50~12:10辺計礼山一等△732 m, 12:45林道, 13:06登山口, 13:23~14:25奥春別, 16:50~18:08帯広, 21:04~21:08札幌, 21:55小樽(泊)
- 4月26日 8:30出発, 8:50~10:00フェリー,
- 4月27日 15:45舞鶴港, 19:38二条駅

【 個人山行 】

念願の笈ヶ岳と猿ヶ馬場山

服 部 正 義

深田久弥氏、久恋の山、笈ヶ岳（1,841 m）に一里野発電所から登頂する。平成4年4月15日、16日、2日間の休暇を利用して、我が京交山岳部、副部長、大槻氏が平成3年4月28日に登頂されたルートを利用させて頂き、3日前に降った真白い雪、快晴でブルーの空、発電所上の送水管林道横をAM5:45分に出発して、PM12:45分に飛騨、加賀、越中の三県に境界した山、笈ヶ岳の山頂に到着する。

二度と登れないだろう笈ヶ岳の三等三角点の設石捜しに、食事をしながら、ピッケルで突いて石の音がすれば雪をのけ何回も作業するが残念ながら雪が多くて発覚できず、二枚の笈ヶ岳のプレートの前でハダカになり記念写真を撮り、平成3年4月28日（快晴）ブナオ峠から登頂した大笠山（1,821 m）、白山、三方岩岳、人形山、猿ヶ馬場山など地図で指呼確認して、二度と来れない笈ヶ岳の山頂を後にする。

何度も何度も後を振りむき、大きな壁に三つのコブ、左手の黒い岩峰の本峰、大笠山、白山をいやという程見ながら往路下山。

PM6:30分に無事、発電所上の林道に帰り、食事の用意をしながらビールで乾杯し、一人で満足感にひたりながら二時間位眠っただろうか、カミナリと雨で眼がさめる。

4月16日、勝山市北六呂師で朝を迎え経ヶ岳（1,625 m）に登りたいが体力を消耗しているので、今回の山旅は、深田久弥氏ゆかりの低い山をと越前富士日野山（795 m）二等三角点に北陸ロード、武生ICに出て、平林町荒谷、日野トンネル入口横、日野神社横から登山、40分位いで深田氏が夫婦で登山された萱谷コースの分岐点、そこから12分位いで日野神社奥の宮に着く。

山の安全を祈願し、三角点で写真を取り往路下山。

平林町からR365に出てJR今庄駅手前で右折して板取まで行き次の目的地、木の芽峠（628 m）に登る。

木の芽峠は福井県の南部、敦賀市と今庄町の境にあり、平安時代の初めから、海岸を通るR8号線が開通するまでのあいだ、都と北陸を結ぶ要路として、又、軍事上も重要な道だったそうです。

深田氏夫妻も、この北陸の山旅が、夫婦水いらずの最後の旅で、2年後の昭和46年（1971年）に68歳の誕生日を迎えて間もなく、茅ヶ岳（1,704 m）二等三角点、直下で急逝されました。

今は北陸自動車道も完成し、又木ノ芽峠、下を103,870 mの北陸トンネル（JR北陸本線）が通って、大変便利になったと思いつつ、往路下山して、今庄ICから北陸ロードに乗り敦賀ICまで行き、国鉄時代に掘った北陸トンネル掘さく中に出た、敦賀トンネル温泉に入湯（つるが荘入湯代660円）して、2日間の疲れをいやしてR27から無事亀岡に帰る。

猿ヶ馬場山（1,875 m）

5月2日、午前勤務終了後、一路岐阜県白川村萩町に車を走らせR 360で天生峠（1,290 m）に向う。途中ゲートがあり自分でカギの数字を合わせて大フィーバー？ 天生峠から温原高原に登りミズバショウが咲く準備中。さてこまった尾根（沢）が4本もあり、木の枝にテープでもないかと10分ほどさがす。一番奥の湿原植物群落から向って左から二つ目の尾根（沢）から登り始め、P 1,400 m（三等三角点）にタッチ、山頂から見えた、猿ヶ馬場山がまずは、靱糠山（1,744 m）にむかって登ったり下ったり、トラバスをくりかえしながら、右手に猿ヶ馬場山、最高点（1,875 m）、その右手に三角点のある峰（1,827 m）を見ながらアップダウンをくりかえしながら右にふり、猿ヶ馬場山最高点に最後の直登、ピッケル使い、そしてキックしながら、二度と登れない踏むことのないだろう猿ヶ馬場山の山頂に立つ。

雨の後、快晴である為遠くの山々が遠望出来、とりわけ御前ヶ峰、大汝峰、妙法山、三方岩岳、一等三角点（百名山）御前岳（1,816 m）等々の山容をビールのみながら写真の用意をして山頂でゆっくりする。

往路下山、P 1,875 mから靱糠山の山裾まで、尾根を下り時間短縮し、トラバスしながら登りの足跡に戻り、左手後方に目を向けると二つの峰をした山容、猿ヶ馬場山をカメラ出して収め、往路はP 1,400 mに登らず60度ぐらいの山裾、河合村よりをトラバスして、天生高原植物群落地、匠屋敷跡祠前で昼食タイム。この群落地までは登山道がありR 360が開通する6月ごろには、天生峠から多くの人々がミズバショウ見物にこられるのだろう。天気も快晴、無事に天生峠の車まで下山、ゲートのある萩町に戻りゲートの鍵番号を合わせるが猿ヶ馬場山の事で数字をわすれている。1 / 50,000の地図に書いておいた番号で鍵が開く。よかった、よかった。帰路、昔、帰雲山に帰雲城があって、大地震で多くの人々が城がくずれ多くの犠牲者があったという保木脇の慰霊碑から猿ヶ馬場山に向って合掌。

平瀬温泉（入湯 300 円）にゆっくりつかり、^{たかす}高鷲村から野伏ヶ岳（1,674 m）の残雪状態を見に上在所に行くが、雪が腐って、ブッシュも多く登る時期のタイミングが難しい野伏ヶ岳と感じる。

連休の車ラッシュを考え白鳥町からR 158 福井市から敦賀市R 27から亀岡に無事帰る。

【 個人山行 】

丹後の山（宮津）

伊 藤 潤 治

宮福線宮村駅下車で、名勝金引の滝（高さ40m、巾20m）を見て、滝馬林道により地蔵峠。この峠から境界稜を、五萬騎山Ⅲ△400m「（金割谷点）野田町の俗称大年」、ここでは題目山と秀峰石川村点が見透せた。

次の、454m峰は南面皆伐、展望が開けた。ひょっとすると五萬騎山は、この峰かも。伐採がなくなると、ちょっと藪で、Ⅱ△515m「（石川村点）野田川町の通称宮津谷」。宮津湾、赤岩山、杉山、大江山連峰の実に大観、こんな頂上はめったにない。大宮峠まで縦走。関ヶ淵經由宮福線喜多駅に下山。幸せな1992年4月25日であった。

【 個人山行 】

瀬沢から奥穂高岳へ

竹 村 芳 廣

5月入ってから、山での遭難が相次ぐ中、山行きを前にして気持ちの動揺を押えながら準備をするが、何かはかどらない。

5月5日京都駅21時37分発、同営業所の早川さんとちくまに乗る。

（ホームには、団体のパーティもいて別の車両に乗る。）

5月6日松本駅4時01分着、新島々行松本電鉄の電車、4時23分発に乗る。京都駅で一緒だった団体も乗っている、どこへ行くのか中にはスキーを持った人も数人いる？ 新島々4時50分発バスに乗る、団体も一緒。

上高地6時05分着（何か景色が違う青空に奥穂高岳と明神岳が雪化粧していて、夏しか来たことがないので。）身支度をして上高地を出る。6時25分山靴での林道はつらい。明神へ7時10分、ここで朝食にする。横尾に9時30分着、これから行く瀬沢の方から数人が来る。上高地まで一緒だった団体の先頭が来た。先に丸木橋を渡って横尾谷へ入る、川原を越え樹林帯へ、このあたりから残雪が有る。本谷橋付近に出る一面雪景色、数年ぶりの雪山に身を引き締める。雪に足を取られ先へ進まない。幾つかのコブを越え進むが瀬沢はまだ見えない。ザックが肩に食い込む。（二年前の秋に瀬沢に来た時を思うと時間的に瀬沢に着く筈なのに。）まだ白銀の世界、つくづく雪山の辛さを知る。例の団体の先頭には追い越され、先に歩いている早川さんが後ろを向いて気遣ってくれる。ようやく瀬沢ヒュッテ付近に着くが、「ヒュッテに泊まるの」と早川さんに聞くと「瀬沢小屋に泊まる」と言う。例の団体も小屋へ向かっている。やっと瀬沢小屋のテラスに

着く、団体の中に交じってビールで喉を潤す。団体の話を聞いているとスポーツ用品店のロッジの大阪、京都店の従業員の研修旅行のようである。小屋に入ると三階は団体専用で約40人はいる、二階は一般客で僕らをいれて10人である。

5月7日、天気は昨日と違って曇り、今日このまま天気が崩れないとの予報。7時20分いよいよ奥穂高岳へ、左の方向を見ると恐竜の背中に似た北尾根に前穂が競り上がっている。正面には白出ノコルと思われるピークが見え、その急登に驚くばかり。右手には瀬沢槍が見える。アイスバーン状の斜面をアイゼンの掛かりを確かめながら一步一步踏み締めて進む。

夏向きのザイテングラードを右手に見て進む。ピッケルを雪面に強く刺しアイゼンで踏ん張り慎重に進む。中程まで来ると、穂高岳山荘からの下山者と離合する。先行する早川さんとは、かなり差があいた。又、気遣うように後ろを見てくれる。途中アイゼンを滑らせピッケルにしがみつ。 (雪山は比良しか経験が無いので、雪山のアルプスのスケールの大きさに驚くばかり。) ようやく穂高岳山荘に着く、9時20分奥穂高岳登り付近を見ると滑落防止用のネットが掛かっている、ネットの目が荒く人が止まるのか? 頂上を見るとガスっていて様子を見ることにした。1時間も山荘の中で待機していて外に出るとまだガスが取れない。頂上の登頂は断念して潤沢へ下山する事にした。何かホットするのもつかの間、白出ノコルより下を見るが潤沢が見えない程斜面が急だ。慎重に下る。しばらく下るが小雨になったので、急斜面でカップの下を履くが、アイゼンを嵌めて要るので悪戦苦闘の末カップを履く。上の方から尻スエドで滑って降りる人がいて、早川さんと二人で同じく尻スエドで下る、まだ下迄3/4は有る、かなりスピードが出る。あっと言う間に潤沢小屋付近まで来る。

12時、午後は待機。かなり雨が激しく風も強い。

5月8日、まだ雨が強い、7時30分、団体が下山を始めた。早川さんと相談をしてもう一日小屋で停滞し、明日の天気の回復を待つことにした。

5月9日、外はまだ雨で北穂高岳の登頂は断念して下山をすることにした。本谷橋付近まで来ると、来たときと様子が違う。先日らしい雨で数箇所を開けて横尾谷が激しく流れている。横尾へ9時着。ここからの上高地へは田圃の畦道だ。

〔参加者〕 錦林誠一、竹村芳廣

【 個人山行 】

高滝山・金山・熊山

伊藤潤治

5月9日、10日は、大段(坂根)と陣鉢山(若桜)の予定であったが、30年ぶりのメイトーム、だと騒ぐので、9日は、『言志叢録』「老人の自ら養ふに四件有り。曰く和易。曰く自然。曰く逍遙。曰く流動。是れなり。諸々激烈の事皆害有り。」により自重。10日は、回復するらし

いので、そろそろ出掛て、今は一体の小石仏だが、山上大権現を祀った高滝山Ⅲ△506 m (高梁) 次いで、金山北辰妙見大菩薩。金山休暇村のあるⅠ△500 m (岡山北部)。第三山目『日本山嶽志』にある熊山Ⅱ△508 m (和気)、この頂では、はるか中国背梁の山々がのぞめた。

〔参加者〕三橋 勉, 宮崎日出一, 高木志茂子, 伊藤潤治

例 会 報 告

例会No.	目 的 地	月 日	天候	担 当 者	参 加 者	記 事
1871	積雪期遭難捜索 搬送救助訓練	2月22日 ～23日		大倉寛治郎	岡田 茂久 吉田 武 他1名	(別稿詳報)
1879	淡路島一等三角 点巡り	4月11日 ～12日		大槻 雅弘	岡田 茂久 渡辺 智生 今井勇二郎 方山 宗子 他1名	(別稿詳報)
1880	猿子城山, 西勢 山, 榎尾山	4月12日		伊藤 潤治		(別稿詳報)
1881	学能堂山	4月25日		岡田 茂久	大槻, 和田 鷺見敏, 鷺 見寿, 方山 伊豆蔵, 奥 村, 津田, 横井, 原田 渡辺 (F1)	(別稿詳報)
1882	伊豆, 天城縦走	5月 2日 ～ 5日		津田 実	吉田 F1, 大倉 F1, 奥村, 森本 田村, 原田 他3名	(別稿詳報)
1883	由布岳・阿蘇山 九重連山・英彦 山	5月 2日 ～ 5日		岡田 茂久	鷺見 敏一 鷺見寿未子 方山 宗子 渡辺 智生	(別稿詳報)

部 員 動 静

目 的 地	月 日	天候	参 加 者	記 事
笈ヶ岳 猿ヶ馬場山	4月15日 ～16日 5月 2日	晴	服部 正義	(別稿詳報)
平成4年 北海道の山旅	4月14日 ～26日		坂井 久光	(別稿詳報)
柳生街道石仏巡 拝	4月19日		原田, 津田	午前の豪雨をおかして円成寺一誓多林一芳山 石仏一石切峠一滝坂道石仏巡拝をして来まし た。
丹後の山(宮津)	4月25日		伊藤 潤治	(別稿詳報)
夏山合宿 トレーニング1 愛宕山・地藏山	4月26日	晴	大倉寛治郎 松田 誠二 西尾 直樹 山岡 昭弘	夏山合宿トレーニング1回目は、足慣らしと して愛宕山へと出かけました。コースは、情 滝…愛宕山…地藏山…芦見峠…首無地藏…高 雄の約17km。全員良い汗をかきました。
焼杉山	4月27日		津田 他3名	古知谷一焼杉山一天ヶ岳一薬王坂一鞍馬。 薬王坂の途中で地図にない三等三角点を見付 けた。高度計を忘れたので高さは確認できな かったのが残念。
金勝アルプス縦 走	4月29日		奥村, 横井 今井, 津田 他5名	片山一白石峰一滝王山一金勝寺一滝王小一白 石峰一狛坂磨崖仏一桐生ノ辻 片山からの谷道が林道に変身登路が分らず困 った。小学1年のアイちゃんの頑張りに感心 した。
南山城逍遥 (奈良・大阪東 北部)	5月 2日		伊藤 潤治 木原 滋	嶽山もとめて「大御堂観音寺、国宝で天平の 十一面観世音菩薩」Ⅲ△144.7 m一水取点一 天王・辻尾家牡丹園の無二荘一Ⅳ△204.2 長畑点」はないちもんめ。地名、慶佐次盛一 岳兄。
久次岳	5月 2日	晴	大槻 雅弘 ほか3名	宮津5万図で△541.4 m 3等の山。久美浜町 と峰山町を境に此治山峠がある。そのトンネ ル上部から境界線に則って三角点へ登る。下 りは久次部落へ下りた。磯砂山1等が目の前 に大きくデンと座っていた。
飯盛山	5月 3日	晴	大槻 雅弘 F2	前回、岡田部長の例会に参加出来ず残念だっ たが、やっと機会が出来ファミリーと「海の 見える山へ登ろう」ということで実行出来た。 山頂からの展望申し分なく、海も美しく輝い ていた。△584.5 m 2等は古い20万図ではハ ンセイ山とフリガナが打ってある。
雪野山	5月 4日	晴	古市 昌造 和田 良一 大槻 雅弘	MB・今はやりのマウンテンバイクなるもの で、平均年齢50歳+aの中年が100km走行 し1等△308.8 mに登る。慣れぬことをした が、気分は爽快。小生(大槻)は、2, 3, 4日と3日間忙しい山行であった。

目 的 地	月 日	天候	参 加 者	記 事
霊仙山	5月 4日	晴	山岡 昭弘	5月の連休、あまりにも天気が良いので、霊仙山へと出かけました。コースは、JR柏原駅…北霊仙山…霊仙山…汗拭峠…樽ヶ畑…醒ヶ井養鱒場…JR醒ヶ井駅。霊仙山頂は、家族連れ等で賑わっていました。
瀬沢から 奥穂高岳へ	5月 5日 ～ 9日		早川 誠一 竹村 芳廣	(別稿詳報)
宝達山 △ 637.4 m	5月 9日	雨後 曇	大槻 雅弘 F 1	京都を出た時、雨であったが、山頂では止んでいた。展望なく車道が続き通信アンテナが林立していた。町営の立派な休憩所で昼食を摂った。
鉢伏山 △ 543.6 m	5月 9日	晴	大槻 雅弘 F 1	能登半島最北部の一等三角点の山で、近くの高州山は知られていても、地元でもほとんど山名も知られていない山である。下りは宿へ向って完全舗装道路の素晴らしい道を見ながら車を走らせた。
高滝山 金山・熊山	5月 9日 ～ 10日		三橋 勉 宮崎日出一 高木志茂子 伊藤 潤治	(別稿詳報)
蔵王山 (地名高坂山) △ 507.6 m	5月 10日		大槻 雅弘 F 1	この山も、マニア以外登る対象になっていない山であろう。隣の石動山が余りに有名である。能登半島 500 m 以上で三山一等を一度に巡るあわただしい山行だったが、いつも海が目に入り、又、立山、北アの山々。金沢からの白山がとても印象に残った山行であった。

▲▲▲ 5月の集会

日 時 5月11日(月) PM6:00~8:00

場 所 厚生会館 4F 大教室

出席者 (OB)坂井, 伊藤, 津田 (梅津) 吉田 (高速) 大倉
(本局)大槻, 三橋, 和田, 古市, 井戸, 山岡 以上11名

内 容 例会報告, 京都府山岳連盟平成4年度通常総会報告ほか

▲▲▲ 他山岳会の会報(受贈分)

3・4月号 愛宕ニュース,

5月号 北山, 京都山岳, 近畿山行, 趣味の登山, 木雞, 京都山友会, 一等三角点
青嶺,

他 日本山岳会京都支部支部だよりNo.25

▲▲▲ 新入部員 藤原 敬巳 所 属 工事課

住 所 〒604 中京区西の京南原町1-2
西大路御池団地806号

TEL 075-822-6310

生年月日 S.40, 8, 29 血液型 AB型

▲▲▲ 退 部

OB部員 光村 弘志

▲▲▲ 訂 正

部報('92 4月号)1ページ目に下記のような誤りがありました。ここにお詫びして訂
正いたします。

(正)

【第1879回例会】★★

春の淡路島一周と一等三角点巡り

論鶴羽山・釜口山

竜宝寺山

(誤)

【第1879回例会】★★

春の淡路島一周と一等三角点巡り

論鶴羽山・釜口

竜宝寺山

▲▲▲ 京都府山岳連盟平成4年度通常総会報告

日 時 平成4年4月12日(日) PM1:30~

場 所 京都市左京区岡崎公園内 京都市伝統産業会館2F研修室

- 内 容
- 1 平成3年度事業報告並びに収支決算報告
 - 2 平成4年度事業計画並びに収支予算
 - 3 新規加盟, 脱退の承認
 - 4 自然保護正, 副委員長の選任

5 日山協名誉指導員の推薦

6 その他 京都一周トレイル, C級スポーツ指導員制度等

付記 当総会において, 京交山岳部〇Bの坂井, 奥村両氏が, 日山協名誉指導員に推薦されることになりました。

▲▲▲ 京都府山岳連盟無雪期山岳遭難救助訓練のお知らせ

日時 平成4年6月7日(日) AM8:00~

場所 大原金比羅山岩場

集合 江文神社絵馬堂前

備考 参加希望者は, 吉田 武(梅津654)まで連絡して下さい。

参加申し込み期限は, 5月いっぱいまで。

参加料 2000円

▲▲▲ 第3回夏山合宿のお知らせ (例会予告)

行先 後立山と高山植物を眺めながら

後 立 山 縦 走

日時 7月下旬 (前夜発, 山中3泊)

コース 1日目 JR白馬駅—黒菱平……八方池山荘……唐松岳頂上山荘……

唐松岳△2696.4m……唐松岳頂上山荘……五竜山荘(泊)

2日目 五竜山荘……五竜岳△2814.1m……キレット小屋……

鹿島槍北峰……鹿島槍南峰△2889.1m……布引山……

冷池山荘(泊)

3日目 冷池山荘……爺ヶ岳△2669.8m……種池山荘……

岩小屋沢岳△2630.3m……新越山荘……鳴沢岳……

赤沢岳△2677.8m……スベリ岳……針ノ木岳△2820.6m

……針ノ木小屋(泊)

4日目 針ノ木小屋……蓮華岳△2798.6m……針ノ木小屋……

(針ノ木雪溪)……大沢小屋……扇沢—JR信濃大町駅—

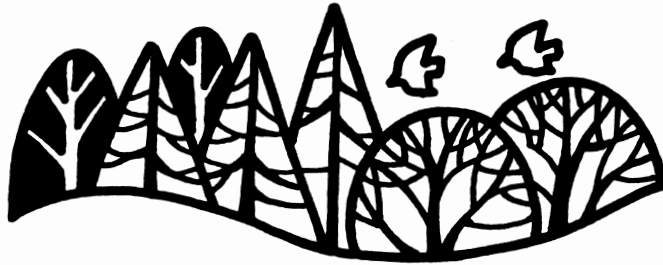
夜に帰京の予定

担当 大塚孝之(内765)

備考 参加希望者は, 担当者まで事前連絡の上, 6月20と7月11日の夏山合宿トレーニングに必ずご参加下さい。

・参加申し込み締め切り 7月11日(土)

・1/5万円 白馬岳, 立山, 大町



THE LOG CABIN CO.
 H.HASEGAWA'S SHOP FOR ALPINISTS
KYOTO JAPAN

登山道具店 ログケビン
 ☎ 604 京都市中京区御幸町通蛸薬師下ル
 FAX:(075)221-8069 ☎(075)221-7569
 営業時間:午後3時~8時 お問い合わせはなるべく郵便か
 定休日:月曜日と火曜日 FAXをお願いします。

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
 仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品

贈答品総合センター
 厚生会指定
サンコークラフト
 西島輝雄

左・川端丸太町下る下堤町88
 TEL (075)771-3442

帆布・濾布
 テント・シート
 雨合羽

木村工業有限会社

京都市中京区ミブ車庫前
 TEL 801-5331 (代)

西大路営業所
 下京区西大路七条下ル
 TEL 321-0251

登山とアウトドア専門店
今、アウトドア派大集合!!

●登山用品はもちろん、
 注目のスポーツ
 カヌーをはじめ、
 ひと味違う充実の
 品揃えは必見のもの!!

ビッグホリイケ
 営業時間 AM10:00~PM9:00 <年中無休>
 京都市中京区御池通高倉西入(千代田生命京都御池ビル2F)
☎(075)222-0363

京都で唯一の山の専門店

Now Out door sports

ハイキング&キャンピング・クライミング
アウトドアウェア・US放出品
ポータブル用品

Mountain

〒604 京都市中京区二条通河原町西入
TEL 075(258)-0548
●営業時間 AM10:00-PM8:00 毎週火曜定休
(株) スポーツ コニシ

自費出版のススメ

自分の文章が活字になる喜びを味わってみませんか 詩・随筆・自分史・社史の編集から印刷・製本までプロの小社がお手伝いさせて戴きます

(株) 北斗プリント社

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)

TEL (075) 791-6125(代)

FAX (075) 791-7290



建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真(カラー・白黒)取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区^{あけず}不明門通六条下る西側
(烏丸通六条東1筋目下る) ☎ (075) 351-6598

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成4年6月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部